

JF大分

水産おおいた

発行元
大分県漁協

<http://www.if-ota.or.jp/>

JFMB大分県会議が始動

不良債権上位20先の回収 に向け担当理事を選任

4月5日開催の第1回理事会において、協議・報告事項として実施した農林中金研修会「漁協経営について」を踏まえ(▽第153号参照)、早期指導先基準への該当を解消するため、1日、第1回JFマリンバンク大分県会議が召集された。

先の研修では、自己資本比率が10%を下回るとレベル指定となり、資産運用制限を受けること等が説明された。また、自己資本比率を改善するために「不良債権の回収」が極めて有効であること、当漁協の不良債権比率は高水準かつ上位20先が負債の太宗を占めていることが示された。さらに先行取組県の事例から、組合長をトップに各エリアの理事が責任をもって回収を実践する実効性ある体制構築が必要とされた。

第1回大分県会議では、
①本支店一体となって体制・役割分担を明確化し、PDCAサイクルを回す。
②組合長をトップに各エリアの理事が責任をもって実践する。

③不良債権上位20先を対象に絞り込む。

以上の3点の考え方とその具体的な内容に基づき、担当理事を選任した。

選任に際しては以下の2点を原則とした。

①理事が運営委員長として管轄している地区に債務者が所属している場合は、その地区を管轄している理事を「担当理事」に選任する。

②債務者が所属している地区の運営委員長が理事でない場合は、債務者が所属している海区を所管している理事の中から「担当理事」に選任する。この場合の「担当理事」は、該当地区の運営委員長と積極的にコミュニケーションを図り、業務を遂行する。

これにより選任された「担当理事」は、定められた様式に沿って、債務毎の基本情報、対処方針、回収目標等をまとめ、6月中旬に予定している第2回大分県会議に図ることとなった。

2面

水産の未来を語る夕べ



3面

人命救助に感謝状贈呈



理事会支店長会議

4面

県水産幹部就任の挨拶

5~6面

県水産職員(担当業務)

水研だより



令和4年度

漁業就業者

75人就業

漁船漁業自営が主体

区分	水産業				参考		合計	
	小計	自営	雇用	(女性)	農業	林業		
平成30年度	71	52	19	(0)	248	105	424	
令和元年度	73	54	19	(4)	257	105	435	
令和2年度	76	47	29	(6)	290	102	468	
令和3年度	76	47	29	(4)	280	113	469	
令和4年度	75	56	19	(4)	281	106	462	
5年間合計	実績	371	256	115	(18)	1,356	531	2,258
	目標	368	-	-	-	1,324	524	2,216
	達成率	101%	-	-	-	102%	101%	102%

県人事異動

漁業管理課長に大屋氏、水産振興課長に大塚氏

県は15日、佐藤樹一郎知事の就任後初となる人事異動を発令した。水産関係では、高野英利農林水産部審議監(水産担当)は漁業管理課長兼務が解任専任の審議監へ。後任の漁業管理課長には大塚寛水産振興課長が、同じく水産振興課長には大塚猛南部振興局長が、同じく水産振興課長には大塚猛南部振興局長が、同じく水産振興課長には大塚猛南部振興局長は工藤秀明豊後高田土木事務所長が就いた。佐藤章農林水産部長は留任した。(▽詳細は4~6面参照)

次長級

農林水産部審議監(水産担当) 高野英利

課長級

農林水産部漁業管理課長 大屋寛
 農林水産部水産振興課長 大塚猛
 農林水産部漁港漁村整備課長 工藤秀明

県は9日、令和4年度における農林水産業の新規就業状況を発表した。水産業では過去2番目に多い75人が就業した。漁船漁業への就業者が増加し、自営就業者は56名と75%を占めた。過去5年間を合計し

た就業実績は371人となり、目標の368人を上回った。農業では自営就業者を主体に281人、林業では雇用就業者を主体に106人が就業し、農林水産業全体の新規就業者は462人となった。

水産政策実現を 岸田首相に要望



自民党水産政策推進議員協議会(会長・鈴木俊一財務大臣)が主催する「水産の未来を語る夕べ」が8日、千代田区永田町の党本部で開催された。岸田文雄首相をはじめ、麻生副総裁、茂木幹事長、浜田防衛大臣ら党の幹部が出席。水産業界からは、各都道府県の漁業団体や全国組織の役員が参加した。



水産の未来を語る夕べ

食文化や海・浜を守る水産業界の役割は重要。政府は多くの課題に対応し、食糧安保に取り組み。新しい資源管理等に力添えをお願いする。」と語った。

- ① 社会情勢の変化に対応した我が国の漁業経営への機動的な影響緩和対策
- ・ 漁業経営セーフティーネット構築事業の拡充・強化
- ・ 漁業収入安定対策(積立・ぶらす)の拡充・強化等
- ② 新たな資源管理・資源回復の推進に対する取組支援
- ・ 海洋環境変化に対応した資源調査の充実
- ・ スマート水産業の推進対策
- ・ 「新たな資源管理」の推進に係る漁業者への理解醸成と支援策の拡充等
- ③ 海洋環境の激変に対応した漁業者・漁協への取組支援



2023年度漁連(漁協)信漁連会長 福岡ブロック会議

標記会議が11日、福岡県水産会館において開催された。

冒頭挨拶に立った坂本雅信全漁連会長は、8日の「水産の未来を語る夕べ」に言及。「水産物の多様性などについて岸田首相に伝えらえた。ただ、食糧安保では懸念が残った。農業では有事の際の基本方針が定められているが、四方を海に囲まれている日本の有事は漁業者が守っている。国会議員や水産庁には、その点の理解を深めてほしい」等と挨拶した。

次いで、九州信漁連の久保田正経営管理委員会会長を議長に選出し、協議、報告事項について事務局の説明を受けた。前年度決算や本年度事業計画、通常総会に付議する事項等について、いずれも原案を了承した。

「水産日本の復活」を実現するための 要望書

我々漁業者・水産関係者は、将来にわたって漁業を継続し、「国民・消費者に対する安全・安心な水産物の安定供給」の使命を果たしていくため、新たな資源管理の取組をはじめ、成長産業化に資する、供給面での構造改革、水産物需要の回復など、あらゆる手段を講じて浜の未来を切り拓いていく決意であります。

しかしながら、海洋環境の激変に伴う漁獲量の急減や、長期にわたるロシアのウクライナ侵攻による国際情勢の緊迫化に伴う燃油や資材・餌飼料価格高騰の影響により、水産経営は悪化し、我が国の漁業・漁村は未曾有の危機に直面しています。

この難局を乗り越え、「水産日本の復活」を実現し、将来にわたって水産食料安全保障の使命を果たしていくため、政府・自民党におかれましては、総力を挙げて水産政策実現に向けたご支援をいただきますよう、水産関係者の総意により、強くご要望申し上げます。

2023年5月8日

全国漁業協同組合連合会
代表理事会長 坂本雅信

- ・ 海業の取組強化による漁村地域の活性化対策
- ・ 漁業就業者の確保・育成対策
- ・ 漁協の自己資本対策に対する支援等

人命救助に感謝状



県漁協上入津地区漁業運営委員会の鳴海盛彦委員長は4月27日、佐伯海上保安署(権藤陽治所長)から人命救助に貢献したとして感謝状を贈呈された。

3月19日、佐伯市蒲江の尾浦沖で釣りをしていたミニボートが転覆し、男性2人が転落。自力で磯場まで泳ぎ動けなくなったところを、保安署から通報を受けた委員長が船で救助した。

救助された2人には怪我もなく、委員長の海難事故への常日頃の備えが実を結んだ。

上入津の鳴海委員長(県漁協理事) 転覆ボートの2名を磯場から救助

第2回理事会

1日、5年度の第2回理事会を開催した。

第1号議案「組合員の異動について」では、准組合員への新規加入3人と正組合員への資格変更2人について承認した。

第2号議案「令和5年度・補助事業の取扱いについて」では、県漁協が実施する各種の事業計画を承認した。支店別の水産振興事業計画表について、県の負担が見えないとの意見があり、次回から様式を訂正することとした。

第3号議案「令和5年度・コンプライアンスプログラムの策定について」及び第4号議案「令和5年度・内部検査実施計画について」は原案を承認した。

第5号議案「令和5年3月末

減損会計計上について」では、土地価格の著しい下落により多額の減損処理を行うが、対象支店の努力により、当初予算に計上していた額より処理する額を引き下げることができたとし承認した。

第6号議案「令和5年3月末

減損処理計上により大幅な減益 自己資本比率は10・79%

資産自己査定及び資産自己査定に基づく貸倒引当金計上について」では、償却額を含む貸倒引当金総額は前年度より7百万円減り7億3千万円となり、原案を承認した。

第7号議案「第21事業年度(令和4年度決算概要について)」

では、人件費等事務費の節減が図られた一方、電気料の高騰等が管理費を押し上げたこと。昨年と比較して経営は改善したものの黒字に寄与するほどの伸びには至らなかったことから、赤字決算となったことが説明され、原案を承認した。

第8号議案「令和4年度・常例

検査改善状況報告書の提出について」は行政庁への報告を承認した。

協議・報告事項では、会計監査人の就任依頼を「監査法人北三会計社」に提出すること、本理事会に先立ち実施した「第1

回JFマリンバンク大分県会議(▽1面参照)の協議結果等を説明した。

第1回支店長会議

前日の理事会決議を踏まえ、2日に第1回支店長会議を開催した。

- ①令和4年度・決算概要及び令和5年3月末資産自己査定に基づく貸倒引当金計上について
- ②令和4年度・常例検査改善状況報告書について、③令和5年度・コンプライアンスプログラムについて説明した。

この他、④第43回全国豊かな海づくり大会(おんせん県おおいだ大会)については、県全国豊かな海づくり大会推進室から概要説明を受けるとともに、御放流魚とお手渡し魚について各地域の意見を求められた。また⑤漁協経営については、JFマリンバンク大分県会議の取組を理解し実務を推進するため、農林中央金庫福岡支店から、「レベル指定」の適用と制約、「不良債権回収」の方法と実務について学んだ。

第3回理事会

次いで15日は、第3回理事会を開催した。

第1号議案「組合員の異動について」では、准組合員への譲渡加入1人及び新規加入2人について承認した。

第2号議案「令和5年度・余裕金の運用方針及び運用について」では、農林中央金庫への預け金を基本とし、国債・農林債等の有価証券についても別に定める「余裕金運用規程」に則り運用することとし、運用方法及び運用予定限度額、運用取引先等の原案を承認した。

第3号議案「第21事業年度(令和4年度・業務報告及び附属明細書について)」では、前理事会以降に貸倒戻入や棚卸差損等の不確定要素が概ね確定したことを踏まえた数値について承認した。

第4号議案「地区漁業運営委員の欠員に伴う対応について」では、辞任届が提出された地区漁業運営委員1名について、当該地区漁業運営委員会の承認のとおり、次回改選まで欠員で対応することを承認した。

協議・報告事項では、通常総会に向けた今後の日程等について説明した。

その他として、不良債権回収に関する情報が外部に漏洩しているとの指摘があり、組合長からコンプライアンスを順守するよう注意がなされた。

大分県農林水産部
漁業管理課長

大屋 寛



このたびの異動で水産振興課長兼漁港漁村整備課長から漁業管理課長になりました。平成2年に県に入り、これまで南部分局をはじめ沿海振興局、漁業公社や水産研究部など様々な職場に勤務し、漁業者、漁協や市町村職員との昼間の会議は真面目に、夜は杯を交わしながらそれなりに真面目に(?)に議論したことはとても勉強になりました。親しくなつた方々(厳しく指導された人、時にはけんかした人も)とのつながりも、いつの間にか大きな財産だと思える年齢になりました。早くコロナ前の

状況に戻り、膝を交えて語れる機会が来ることを願っています。さて、約2年間の水産振興課勤務時には令和3年春のもじやこの不漁に始まり、4年1月の日向灘地震や9月の台風14号による漁業被害の発生など様々なことがありました。明るい話題としては、漁業公社国東事業場の立て替えや県漁協の第2加工場の建設など、本県水産業がより発展するための新たな取り組みも始まりました。関係した皆様方にはたいへんお世話になりました。

業の免許及び許可、漁業取締り、赤潮被害防止対策、水産物の流通に関するなどがあります。漁協をはじめ水産業に携わる皆さんと一緒にやる仕事も多くありますので、引き続き意思疎通を図りながら進めていければと思っています。加えて、来年の4〜6月には福岡・大分デステイネーションキャンペーンが、そして秋には全国豊かな海づくり大会が開催されます。訪れた多くの方々に大分県の豊かでおいしい水産物を食べてもらう、また県内の人にも再度水産業に目を向けてもらう絶好の機会にな

ると思いますので、情報発信など関係機関と連携して取り組んでいきます。皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

就任のご挨拶

大分県農林水産部
水産振興課長

大塚 猛



本年5月15日付で大分県水産振興課長に就任した大塚です。よろしくお願ひします。前任は、南部振興局の農山漁村振興部長で、久しぶりの出先機関での勤務でしたが、昨年度は佐伯市の水産業が厳しい状況に直面する姿を目の当たりにすることにになりました。

漁船漁業では、漁獲の主体を占めるまき網漁業の漁模様が極端に悪くなり、苦しい経営を強いられることになりました。太平洋北部や日本海側では、マイワシやサバ類のまとまった漁があったようですが、豊後水道に

は目立つた魚群が来遊せず、自然に大きく左右される漁船漁業の不安定さを再認識させられました。また、魚類養殖業でも、台風の接近により湾内に避難したブリ類が赤潮等による酸素不足で大量に死亡する大被害が入津地区で発生し、各経営体が甚大な損害を受けました。また、養殖クロマグロもすさまじい風と高波により深刻な被害を受け、漁船漁業に比べれば比較的安定しているといわれる養殖業でも、自然現象の猛威の前では被害を避けようがない現実を見せつけら

れました。その一方で、このような厳しい状況においても、漁業関係者の皆さんはあきらめず、ことなく経営の立て直しに向け、力強く取り組みまれており、大変心強く感じました。佐伯市以外でも県内各地で漁業関係者の皆さんが難しい課題の解決に向け、いろいろな取り組みを進めていると思います。県としても、こうした取り組みを後押しして成果に結びつけ、本県水産業の成長産業化を図っていくことがとても重要であると改めて強く感じているところで



県水産職員名簿（5月15日付人事異動）

農林水産部審議監（水産担当）高野 英利

所属名	職名	氏名	主な担当業務
農林水産企画課	企画管理班	主査 波多野 良介	水産業政策企画調整、農林水産業振興計画（水産）進行管理等
おおいたブランド推進課	海外流通班	主幹 三吉 泰之	輸出促進協議会運営、水産物輸出拡大・輸出産地形成等
	国内流通班	主任 山本 桂伊	圏域流通・契約取引・市場外流通、広域物流拠点機能強化等
漁業管理課長 大屋 寛 参事 倉橋 賢二郎			
団体流通班	主幹（総括）	堀 敏宏	班の総括、水産関係団体との連絡調整、漁業被害等 水産物輸出、赤潮・貝毒被害防止、漁場環境保全等 水産物流通・消費拡大・卸売、流通適法、水産物表示等 水産物販売促進（マーケット活動）、ブランド流対本部関係
	主幹	片野 晋二郎	
	主幹	西山 雅人	
	主任	菅沼 倫美	
漁業調整班	課長補佐（総括）	大石 隆史	班の総括、漁業取締り、漁業調整、電子申請等 海区漁調委、漁業取締り・行政処分、遊漁船業・行政処分等 漁船登録・測度、特採許可、連調委、海面利用協、大臣許可等
	主幹	中川 彩子	
	主査	大竹 周作	

全国豊かな海づくり大会推進室長 高田 淳史

総務企画班	主査 三代 和樹	宿泊・輸送計画策定、1年前イベント（輸送）等	
事業推進班	主幹（総括）	安樂 康宏	班の総括、総務企画班との調整、関係機関との調整等 海上歓迎・放流行事、漁業者団体・海保との連絡調整等 関連行事の準備運営、1年前イベント（展示・物販）等 放流行事、1年前イベント（放流）等 リレー放流、42回北海道大会PR出展等
	主任	安部 洋平	
	主任	甲斐 桑梓	
	技師	西 陽平	
	技師	後藤 直登	

水産振興課長 大塚 猛

振興班	主幹（総括）	平川 千修	班の総括、ウナギ養殖等 構造改善事業、浜プラン・広域浜プラン、災害復旧、リース事業等 漁場改善計画、海面養殖業（無給餌除く）、資源管理協議会等 沿振特、食の安全・食育、内水面漁業・養殖業、無給餌養殖業等
	主幹	馬場 大	
	主査	田北 寛奈	
	技師	入江 隆乃介	
漁場整備班	主幹（総括）	江頭 潤一	班の総括、中層浮魚礁、藻場ビジョン、漁業災害調査等 基盤整備事業の事前調査・改革評価・事務（県営）等 基盤整備事業調査・指導（市町村営）、多面的、離島交付金等
	主幹	平澤 敬一	
	技師	伊丹 真美	
資源管理班	課長補佐（総括）	堤 憲太郎	班の総括、漁業公社指導、戦略魚種資源管理等 普及指導、担い手対策、資源管理協、保護水面、経営改善等 種苗生産施設建替、栽培漁業、漁業公社 資源管理・漁業収入安定対策、資源管理（戦略魚種外）等
	主幹	田西 三希子	
	副主幹	山田 英俊	
	技師	上田 修平	

〔振興局〕

東部振興局	水産班	課長補佐（総括） 主幹 専門員 主任 主任	真田 康広 都留 勝徳 田村 勇司 川上 恵 森田 将伍	班の総括・調整、水産関係団体の指導、漁業調整、漁業権等 漁業許可、漁港管理、漁業災害等 普及業務総括、資源管理・栽培漁業、新規漁業就業支援等 普及業務（別府湾海区）、沿構・沿振特、赤潮・貝毒、海づくり等 普及業務（豊後灘海区）、基盤整備、青年部・女性部等
中部振興局	水産班	主幹（総括） 主幹 主査 主任 主任 技師	木藪 仁和 竹下 洋海 中尾 拓貴 横山 純一 古川 あさひ 衛藤 凱治	班の総括、漁業調整、取締、農林水産業振興計画等 漁業権、許認可、漁港、海面利用、水産関係団体の指導等 普及業務（津久見地区）、資源管理、海面養殖、多面的、輸出等 普及業務（白杵地区）、後継者、赤潮・貝毒、栽培漁業等 普及業務、基盤整備、沿構・沿振特、保護水面等 普及業務（大分地区）、流通・加工、女性部、金融等
南部振興局	水産班	課長補佐（総括） 主幹 主幹 主任 技師 技師	渡邊 新吾 金澤 健 都留 久美子 前田 真梨子 竹尻 浩平 森本 遼平	班の総括、漁協、漁業調整、漁業権等、指導・取締 漁業権・漁業許可、漁船・小型船舶・遊漁船業、漁港、流木等 普及業務（佐伯・米水津地区）、海面養殖、沿構、資源管理等 普及業務（蒲江地区（蒲江・名護屋））、女性部、貝毒、金融等 普及業務（蒲江地区（上入津・下入津））、陸上養殖、基盤整備等 普及業務（上浦・鶴見地区）、栽培漁業、漁業後継者等
北部振興局	水産班	課長補佐（総括） 主幹 主査 主任 技師	畔地 和久 三ヶ尻 孝文 吉岡 宗祐 井口 大輝 村瀬 直哉	班の総括・調整、水産関係団体の指導、漁業取締等 漁業権・漁業許可、漁業調整、基盤整備（漁港）等 普及業務（豊後高田地区）、金融、基盤整備（漁場）等 普及業務（中津地区）、海面養殖、沿構・沿振特、女性部等 普及業務（宇佐地区）、資源管理・栽培漁業、青年部等

〔企画振興部関係地方機関〕

福岡事務所	企画課	主任	濱田 真悠子	県産農林水産物・物産の販路拡大（おおいたブランド推進課業務）
-------	-----	----	--------	--------------------------------

（注）一般事務及び取締船職員は掲載しておりません

水 研 だ よ り

農林水産研究指導センター職員名簿（5月15日付人事異動）

農林水産研究指導センター

所属名	職名	氏名	主な担当業務
研究企画担当	主幹	林 亨次	センター全般（農林畜水）の広報・成果普及、外部資金、知的財産事務等

水産研究部部長 伊藤 龍星 次長 甲斐 亨

所属名	職名	氏名	主な担当業務
管理担当	課長補佐(総括) 副主幹	河野 安昭 岡部 智則	管理担当の総括、人材育成、具有財産管理、電子県庁関係事務 予算の調整・執行・決算、収入に関すること、出納事務、物品管理
漁業調査船 豊洋	船長 機関長 主任船舶技師 主任船舶技師 技師 技師	平川 誠 久保田 浩治 久保 隆 藤澤 芳宏 松岡 三代 長 田 彩	調査船の総括、人材育成、調査船の運航管理 調査船の運航管理、機関の保守点検全般 機関保守点検、海洋観測業務、調査器具使用・保守管理 無線通信業務、船舶検査関係等事務、調査器具使用・保守管理 機関保守点検、海洋観測業務、気象情報収集 安全衛生担当業務、海洋観測業務、気象情報収集
企画指導担当	上席主幹研究員(総括) 研究員	日高 悦久 亀田 崇史	企画指導担当の総括、調査研究成果のとりまとめ及び広報・外部評価 予算編成、研修・視察・見学対応、その他企画調整
資源増殖 チーム	主幹研究員(TL) 主任研究員 研究員 研究員 研究員 研究員 研究員	木本 圭輔 白 樫 真 和田 宗一郎 鈴木 翔太 渋谷 駿太 安部 憲人 野副 樹	資源増殖チームの総括、人材育成、上浦保護水面 磯根資源、磯焼け対策、内水面の資源・生態調査 浮魚の資源・生態調査研究、資源基礎調査、魚礁効果調査 ブリ種苗生産技術開発、餌料培養の技術開発 タチウオ資源回復、資源管理型漁業、底魚の資源・生態調査研究 クルマエビ栽培資源、ヒラメ育苗、放流技術開発全般 TACの調査、漁海況関連
養殖環境 チーム	上席主幹研究員(TL) 主任研究員 主任研究員 主任研究員 研究員 研究員 研究員 研究員 研究員	宮村 和良 斉藤 義昭 原 朋之 野 田 誠 吉井 啓亮 中島 智優 室谷 冬香 毛利 文香	養殖環境チームの総括、人材育成に関すること 低コスト飼料・効率的養殖手法開発、水産利用加工指導、藻類養殖研究 疾病診断・衛生管理指導、抗菌剤・ワクチンの適正使用指導、疾病被害調査 赤潮・貝毒監視及び予知技術開発、赤潮・貝毒等漁業被害防止技術開発 ワクチンの開発、ワクチンの改善、ワクチン効果を高めるための技術開発 陸上養殖生産技術開発、海産魚介類養殖技術開発、水産物品質保持技術開発 養殖生産物の食品安全衛生、種苗の健全性確保、病原体検出技術開発 漁場の環境調査及び適正管理、環境に起因する漁業被害防止対策

北部水産グループ長 木村 聡一郎

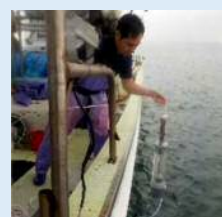
所属名	職名	氏名	主な担当業務
管理担当	主幹	佐伯 恵美子	管理担当の総括、予算編成・執行及び決算、庁舎・具有財産等維持管理
資源増殖 チーム	主幹研究員(TL) 主任研究員 主任研究員 主任研究員 研究員	内海 訓弘 徳光 俊二 堀切 保志 崎山 和昭 高橋 杜明	資源増殖チームの総括、人材育成、研究予算、産産税充当事業 タイラギ・アサリ種苗生産および増養殖技術開発、種苗生産施設維持管理 資源評価、キジハタ種苗生産技術開発、魚礁効果調査 資源管理、放流効果調査、マダコ種苗生産技術開発 カキ類種苗生産および養殖指導、種苗生産用餌料培養、アサリ資源調査
養殖環境 チーム	上席主幹研究員(TL) 主任研究員 研究員 研究員 研究員	徳丸 泰久 朝井 隆元 中野 奈央 平野 莊太郎 岡田 理	養殖環境チームの総括、人材育成、研究予算、研究成果普及、他機関との連絡調整 疾病診断・魚類防疫、内水面養殖技術普及、クルマエビの養殖研究 ヒジキの増養殖、ノリ養殖病害対策研究、藻類の研究・指導 内水面の資源・環境に関すること、カワウ・外来魚対策、スマート水産業技術開発 赤潮・貝毒調査、被害防止対策研究、浅海定線調査、漁場環境調査研究



養殖ヒジキの収穫 始まりました
(5月2日 北部水産グループ)



小型天然モジャコの餌付け試験を実施中！
(5月23日水産研究部)



赤潮・貝毒調査 実施中！
(5月24日 北部水産グループ)

農林水産研究
タイムリー情報



大分海区漁調委

第18回委員会

19日、県水産会館5階研修室において、第18回大分海区漁業調整委員会が開催された。

冒頭、高野英利審議監の挨拶及び15日付け異動発令に伴う挨拶があった。

第1号議案「知事許可漁業の制限措置及び申請期間並びに許可の有効期限については、漁業法の規程により、知事が許可又は起業の認可に際し公示する制限措置の内容及び申請すべき期間を定めるため、海区漁調委の意見を聴くもの。漁業法改正に伴い新たに許可をする場合の制限措置等の公示及び諮問が義務づけられ、委員会の議案数が増加しているが、諮問内容の多くが従前のものと変更がない。このため、これまで許可の申請期間に合わせ分散して行っていた知事許可漁業の制限措置等に関する諮問を、年度当初に集約化し、委員及び事務局の負担

軽減を図ることとなった。なお、諮問後の状況変化により、制限措置の内容・申請期間を変更する場合は再度諮問を、年度途中で新規許可の要望があった場合は、その都度諮問を行うこととなった。このようなことから、今回は令和5年度中に公示する予定の「いか棒受け網漁業」など8件について説明があり、いずれも問題ない旨を知事に答申ことに決した。

第2号議案「別府湾南部海域における「まきえ船釣り等」の承認については、令和5年6月1日から委員会指示により「まきえ船釣り等」が禁止される別府湾南部海域において、委員会告示第5号第1項ただし書の規定に基づき承認申請があったもの。本年度当初の申請件数は漁協関係、船釣り連合会及び小型船安全協会連合会等から317件であった。過去10年の承認実績は漸次減少する傾向にある。その他、①「大分県資源管理指針」の変更について、②漁業法第69条第1項に基づく漁業権の免許に係る審査要領の作成について、説明があった。①の記載内容に関連し、複数委員からクルムエビの放流効果を疑問視する発言等があった。また、②については、6月19日までパブコメを募集し7月1日施行予定。

前号から、不良債権処理の取組について紹介している。自己資本比率に係る問題など難しいことを説明しているが、簡単に言えはこういふことか・・・
借りたお金は他の組合員のお金です。他人のお金は約束どおり返してください。返していただけないと、県漁協は困っている組合員への融資ができなくなりま

編集後記

・・・担当理事は債権回収に努めますので、組合員の皆さん、役員各位のご理解とご協力をお願いいたします。

おおいた県産魚の日

5/26 (金)

伊佐幾が安い。



5月の「県産魚の日」は第4金曜日の26日、おさかなランド明野店、わさだ店の2店舗で開催。旬を迎えた鶴見産のイサキを特売した。恒例となった豪華賞品が当たる抽選会を実施し、盛り上がった。

おおいた県産魚の日

5/26 (金)

が安い。



春〜夏にかけてが旬。「梅雨イサキ」等とも呼ばれ、脂がのって美味。山溪の「日本の海水魚」には、「大分では幼魚をウドゴと呼ぶ」とある。お客様からは「県産魚の日は旬の魚が安く手に入り、毎月楽しみ」などの声をいただいた。



サカナをたべれば 幸福が見えてくる

ウオメシ

今回のウオメシは「シーガーデンひじ」のお弁当です。湧水が多い日出町には定期的に水を汲みに行きますが、お気に入りには「山田湧水」。ザビエル道の登山口近くで豊富に湧き出しています。たつぷりと汲んだあとはシーガーデンへ。

新鮮で地域性あふれる野菜や魚介類とともに楽しみなのが、この「あさり弁当」399円也。アサリを始め具沢山な炊き込みご飯で、軽食としても酒の肴としても重宝な、癖になる一品です。最近発見した「おこげバージョン」も秀逸です。

ちなみに、湧水はコーヒーに使ったり、炭酸に加工してハイボールでいただいています。